作成：宗谷農業改良普及センター宗谷北部支所（R4年9月）

まだまだいけるぞ　繁殖！
あなたの牧場の現状は？　解決手段は何か？

普及センターHP

繁殖を制す者は経営を制す

繁殖成績は、生乳生産や個体販売を大きく左右します。
酪検協会のデータでは、疾病が原因による乳牛除籍頭数のトップは繁殖で、初産牛・経産牛とも過去20年間！ほぼ変わりません。
繁殖は悪化すると、普通の状態に戻すため時間がかかるので、普段の地道な努力の積み重ねが欠かせません。

そこで今回は、確認の意味を含めて･･･
1　なぜ繁殖を改善するのか？
2　繁殖の改善ポイント
以上２つについて紹介します。

1　なぜ繁殖を改善するのか？

繁殖成績の向上

乳量が増える
- 搾乳日数が短く、乳量の多い牛が増える。
- 平均乳量と出荷乳量が増える。

牛が増える
- 繁殖不良による廃用が減少する。
- 分娩間隔が短く肥りにくくなり、周産期病が減る。
- 分娩数が増えると後継牛確保、個体販売、増頭など選択肢が増える。

収入が増加、経営が安定、選択肢が増える

2　繁殖の改善ポイント

繁殖悪化の要因は発情発見のほか、栄養、周産期病、肢蹄など幅広いですが、今回は発情発見と授精について、ある農場の事例を参考に、実際に効果のあった管理方法の一部を紹介します。

(1) 発情観察のルーチン化

発情発見率を上げるため１日２回、一定の時間に行います。特に発情兆候が微弱傾向の場合は、牛が一斉に寝ている、またはエサを食べているタイミングを選ぶと、発情粘液や陰部の観察がしやすく効率的です。

(2) 情報共有のための「見える化」

作業者間の情報共有のため、見やすい場所にホワイトボード、繁殖カレンダー、繁殖台帳を設置します。いつでも誰でも書き込め、確認ができるので便利です。

(3) 初回授精のタイミングを決定

この事例では経産牛のVWP（分娩後授精待機期間）を約50～60日、育成牛では初回授精月齢を約12ヶ月、体高約 125cmと設定しています。ルール化することで初回授精の遅れを防ぎます。

(4) テイルペイントの導入

放牧牛や群飼養では、管理者のいない時間帯の発情見逃し対策のため、尾根部周辺にテイルペイントを塗布し、発情発見の効率・精度を向上させます。

(5) 未受胎牛対応の積極的な実施

獣医師によるエコー（超音波診断機）を用いた卵巣・子宮の状態確認を２週間毎に実施、治療や授精・移植を行います。

牛の状態・条件によっては、定時授精、特濃精液使用、不妊追い移植を併用するなど、柔軟に対応します。

また、酪検協会のPAGs（パグ）検査（授精後28日以降の乳汁による妊娠検査）で不受胎牛を抽出、より早い対策実施と牛・人両方の負担軽減が可能となります。

繁殖の改善は、未受胎牛をいかに早く妊娠させるかにかかっています。

地道な作業ですが、繁殖サイクルをスムーズに回すことで、収入を増やし、選択肢の多い儲かる経営にしましょう！